

追悼のことば

本日、「令和四年度東京都硫黄島戦没者追悼式」が、硫黄島「鎮魂の丘」においてかくもおごそかに執り行われますことは、遺族にとりまして無上の慶びであり、遺族を代表して謹んで追悼のことばを申し上げます。

戦没者の皆様は、本土防衛の砦となって硫黄や地熱のふき出る地下壕の中で、苦難に満ちた戦いの末、国難に殉じられました。

最期の最期まで祖国の安泰と国民悠久の幸せを願い、愛しい家族を案じつつ、尊い命を捧げられた皆様の無念に思いを致しますとき、戦後から七十七年が過ぎた今でも胸がいたみ、悲しみと哀惜の念、新たなるものがあります。

戦争は実に残酷なものでございます。

かけがえのない一家の柱を失った母や私たちにとっても、あまりにもつらく、耐え難いことでありました。

戦中戦後の混乱する社会のもとで、朝早くから夜遅くまで懸命に働き、家族の生活を守り四人の子供を育てた母は、八十四歳で亡くなりました。一生懸命働いていた母の姿は今も目に焼きついています。

一度も父の顔を見ることも一緒に暮らすこともできなかった私にとって、幼い頃、父親のいるにぎやかな家庭をうらやましく思い、父を奪った戦争を恨んだことも幾度となくありましたが、国のために殉じた父を誇りとして、母、兄妹、互いに励まし助け合いながら生活を切り開き こんにち 今日 を迎えました。

皆様の案じられた祖国は幾多の困難を乗り越え、国民のたゆまぬ努力により、こんにち 今日 の繁栄と平和な社会を築き上げることができました。これもひとえに皆様の尊い犠牲とご加護の上であればこそと心から感謝しております。

海の向こうでは、ロシアによるウクライナ侵攻により、今も子供たちを含む多くの尊い命が犠牲になっています。一刻も早く平和が訪れるよう願ってやみません。

今こうして慰霊碑の前に立つと、人がかわり時代が移ろうとも二度とあの悲惨な戦争を繰り返してはならない、平和を守り続けなければならない、との思い、切なるものがあります。

私たち遺族は、戦争の史実と教訓を風化させることなく若い世代に確実に語り継ぎ、祖国の繁栄と恒久平和、希望に満ちた社会の増進に、たゆまぬ努力をして参りますこととお誓い致します。

戦没者の皆様、安らかにお眠り下さい。

結びに、このような立派な式典を行って頂いた知事様はじめ、関係者の皆

様に心から御礼を申し上げ、ご遺族皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして追悼のことばといたします。

令和五年一月十九日

硫黄島戦没者遺族代表
東京都遺族連合会女性部副部長
江戸川区遺族会女性部長
松 丸 留 美